

広報

No.1274

はつかいち 9

September 2021

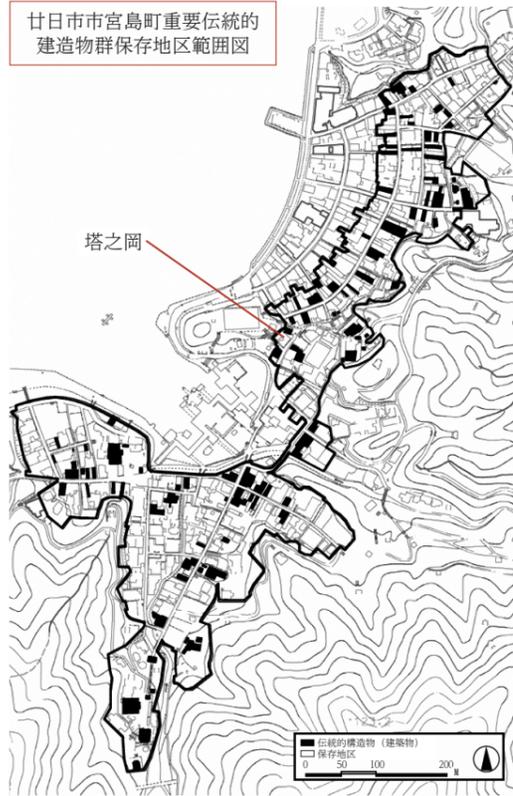
特集
重要伝統的建造物群保存地区に選定
この町並みとその心を未来につなぐ

ちようどいい、あつめた。
甘日市市

はつかいち

島での暮らしや心を伝える 宮島の町並みを紐解いていきます

廿日市市宮島町重要伝統的建造物群保存地区範囲図



町の成り立ち
昔、宮島に人は住んでおらず、厳島神社の祭祀の時にだけ神官たちが島に渡って来ていました。その後、厳島神社の南西に寺社が造られ、神官たちが暮らし始めました。鎌倉時代終期になると瀬戸内海航路が発達し、寄港地として厳島神社の北東側に港町ができていきます。この頃になると厳島神社の参詣者も増え、門前町として発展していきました。

そんな歴史を今も伝える門前町は、厳島神社近くの塔之岡を境として「西町」と「東町」で構成されます。「西町」は神社の南西側に位置し、神官や上級社家を中心に町が造られました。大聖院から二本の通りが海に向けて伸び、山側には大きな屋敷地の石垣や門扉が並びます。西町より少し遅れて成立した「東町」は神社の北東側に位置し、山側から段階的に埋め立てられ町が造られました。海岸線に沿うよ

う弓なりに伸びる通りに沿って町家が建ち並んでいます。

町並みを構成する町家

宮島の町並みは町家が多くを占め、その町家は間口が狭く、奥行きが長いのが特徴です。中は奥まで貫く「通り土間」と呼ばれる通路があり、通路に沿ってミセ・オウエ・ザシキと呼ばれる部屋が並びます。中でもオウエは、土間と一体となった吹き抜け空間で、神棚が設けてあります。

引き継がれる宮島の心

宮島の発展は常に、厳島神社と共にありました。島に伝わるさまざまな伝統文化にも根底には信仰心が見えてきます。

宮島の町並みは、そこに暮らす人々の営みによって形づくられてきたものです。その魅力的な町並みからは人々の暮らしが垣間見えると同時に、その息づかいまでが聞こえてきます。



廿日市市長
松本 太郎

このたび宮島の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことは、光栄なことと思っています。

宮島は、千年以上の長い時間をかけさまざまな文化を取り込み、この島ならではの文化や歴史を築き上げてきました。また、太古から変わることのない島の自然は、島を慈しむ人々の努力によって今日まで守られ、そのままの姿で残されています。

今回の選定は、長年にわたり、宮島

の原点を守り続けてきたことが実を結んだものと思っています。宮島の皆さんがふるさとに誇りを持ち、この原点を受け継いでこられたことに、心から敬意を表します。私たち市民の宝である宮島の町並みは、いま日本の宝となりました。この素晴らしい宝を未来に伝えていくことは、私たちの責務です。世界に誇る宮島を市民とともに守り伝えるまちづくりをこれからも進めていきます。

藤の棚公園に続く道（中江町）



昭和40年代

このたび、厳島神社の周囲に形成された門前町としての宮島の町並みが、わが国にとって特に価値が高いと認められ、文化財保護法に基づく「重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）」に選定されました。先人たちが大切に守り継いできた町並みは、宮島に暮らす人々の営みと共に形づくられてきました。今回は厳島神社門前町の町並みとそこでの暮らしにスポットを当てます。



現在

重要伝統的建造物群保存地区に選定
この町並みとその心を未来につなぐ

問い合わせ 都市計画課 ☎91-833



町並みを残すということは、その地の暮らしや人々の気持ちに触れる機会を残すということ

奈良女子大学 都市建築史・建築芸術分野
藤田 盟児 教授

Profile

建築史家であり工学博士。県内では本市を含め福山市、竹原市、呉市の重要伝統的建造物群保存地区など、多くの町並み保存に関わり、文化庁文化審議会第二専門調査会委員なども務める。



東町の町家のある風景

未来を見据え、町並みを保全していく

町並みや建物を守り、地域の歴史や文化を伝える

今回、建築史家である奈良女子大学の藤田教授に専門的視点からお話を聞きました。

建物の魅力

―建物から人の顔が見える―

私は愛媛県の大山祇神社のある大三島の出身で、小学生の頃から秋の奉納祭では氏子として踊り、獅子舞を奉納していました。これは宮島の人が管絃祭に出るのと似ています。子ども時代に地域の行事に触れていたため、地域の歴史は自分にとってごく身近なものでした。大学で建築を学び、一度ゼネコンに就職しましたが、幼い頃の地元で

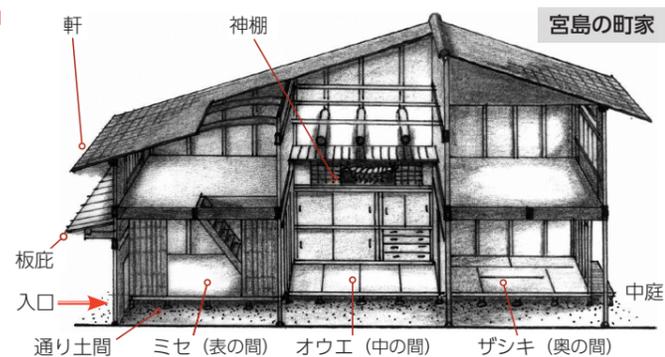
の体験や大学時代に学んだ経験から、歴史を含めて建物の持つ意味を深く知ることが大切だと思ひ、再び大学院に戻り建築史を学びました。

建物は人間の精神に影響を受け、歴史に沿って変化します。なぜなら人間の心の性質として、世代ごとに独自性が生まれていくからです。実際、30年ごとに建築の様式は見事に変わっていきます。小さな神社や道ばたの建物、大きな寺も時代とともに同じように変化するところが、時代のはやりが現れます。そして、これは一部の建物だけで起

こるのではなく、地域全体で変化が起こります。建物は人間の性質と常に密接に結びついているといえます。



西町の特徴的な石垣



宮島の町家

なぜ町並みを残すのか

―町並みを残すことは地域の歴史や文化を残すこと―

管絃祭などの伝統行事や厳島神社などの文化財を残すのはもちろん大切です。そして、同じくらい、周りの門前町を残すことも大切です。門前町の町並みや建物が残っていれば過去の人々の生活や気持ちに触れることができます。宮島の町並みは先人の暮らしや信仰の心を今も

よく伝えていきます。古い建物をなぜ残すのか。それは、人の思いが込められた形ある物を残しておかないと、言葉だけでは過去にあったことが体感的に伝わらなくなるからです。形あるものがなくなると、単なる言葉の世界になって実感が消えていきます。現地でその町を見て、実感して、初めて言葉の世界がより深く自分の中に入り込んでくるのです。

宮島の町並みの特徴、評価

◆外から見た造り

宮島の町家は1階も2階も壁が道路ギリギリまで出ている、1階と2階の間に板の庇が付いているのが特徴的です。豊臣秀吉が朝鮮出兵をしていた当時、外国からの視察団に対して町をより立派に見せるため2階建てにするよう命じたのですが、簡単には2階にできないから2階建てに見えるように庇をつけたことが起源とされており、その時の影響が宮島にはまだ残っているのではないのでしょうか。

◆中から見た造り

宮島の町家は縦に3部屋（もしくは2部屋）が並び、きれいに分割されています。その中でもオウエと呼ばれる神棚が置かれた部屋はとても特徴的です。この部屋は神棚の上に部屋を作らず、2階まで吹き抜けとなっており、とても信仰の心を大切にしているのを感じることができます。

◆文化財としての評価

国の審議会でも宮島は高い評価で、保存が待た望まれていました。厳島神社の保全だけでなく、神社を支える周囲の町並みを保全することで欠けていたピースがようやくそろったという感じですね。これほどの文化財がそろった町は他にはありません。ぜひ市と住民とが連携して素晴らしいまちづくりに取り組んでいただければと思います。

宮島で学び、育ってきた 2人が宮島への思いを 話してくれました

「時代は変わっても、古い心は残っている」

おばあちゃんと家で宮島のことを話して、昔の町並みは残っているけど安全のために電柱が減るなど、古い歴史を残しながらも町が進化していることを知りました。宮島の自慢は昔の町並みが残っていて、建物以外にも伝統芸能やミヤジマトンボなど宮島ならではのものがたくさんあることです。これから、もっと宮島の町並みを知ってもらって、行事も受け継がれてほしいです。そして、今の宮島がずっと続くといいなと思います。



宮島学園 6年生 菊地結衣さん
5年生 木村汐里さん

「宮島に昔の建物が今も残っているのは特別なこと」

宮島の人はいつも声をかけてくれて、みんな優しいです。小さい頃は少し都会への憧れもあったけど、今はこの自然豊かで温かい宮島にずっといたいと思っています。お父さんに厳島図会を見せてもらうことがありました。江戸時代の絵なのに、今も残っている建物が描いてあり驚きました。昔の建物が今も残っている宮島の町は特別なんだなと感じました。

8月に80歳を迎えた吉田宏喜さん。ご夫婦で住んでいる自宅は江戸中期の建物といわれています。先祖代々大切に家を守ってきた吉田さんにお話を聞きました。

「祖父の代から畳屋をしています。昔は家の前の通りが舗装されておらず、小さい頃はそこで、ビー玉やコマ回しをして遊んでいました。私が宮島小学校（現宮島学園）に通っていた頃は1学年が3クラスもあり、多くの子どもがいました。親同士も仲が良かったので、よく友だちの家に行っていたんです。オウエがある家も多く、特別に意識することはなかったように思います。信教に関

「疲れて帰ってきたときに、オウエで大の字で寝転ぶときが安らぎであり、代えがたい至福の時です」



吉田宏喜さん



わらず、宮島は神社やお寺が周りにあるのが自然な光景でした。私も子どもの頃からオウエの梁の上や神棚を掃除していましたし、信仰は暮らしの一部でした。そういう意味でも宮島の人には行事ごとを大切にしている、この地区では氏神祭も地域でやっています。父親の代で畳屋を閉じて、その後、家に改修しました。でも、外観やオウエ、ザシキなどはそのまま残して、大切に管理しています。宮島の町並みが見直されて注目を集めるようになったのは最近のことです。もう少し早ければもっと町並みが残っていたのにと惜しい気持ちもあります。小さい子どもや高齢の人でもゆっくり歩いてこの町並みを楽しめるようになりますね」。

宮島で生まれ育ち、一度島外に出て戻ってきた渡辺茂雄さん。そして、結婚を機に宮島に住むことになった妻の由起子さん。違った視点で宮島の町並みへの思いを聞きました。

島から出て初めて分かる 宮島のすごさ

茂雄さん「小さいときから神社や寺は身近にあり、遊び場であり、学びの場でした。住んでいるときは田舎の島という感覚でしたが、上京して出身地を話す時皆が知っていることに驚きました。外に出て初めて住んでいた宮島のすごさを知りましたね。たまに、地元（宮島）に戻ると空き地や駐車場が増え、町並みの変化



宮島四季の宿わたなべ
渡辺茂雄さん、由起子さん

に戸惑い、寂しさを感じることもありました。宮島に戻ってからは、不便なことも多いですが、自然豊かで歴史あるこの町がふるさとであることに誇りを感じるようになりました。とはいえ、町並みのことを意識したのは、仕事や子育てが少し落ち着き、先を見据えて周りが見えるようになってきた40代くらいから

です。今回、重伝建地区に選定され、この町並みが残っていくことをうれしく思います。初めて宮島を訪れた人が、いきなり町並みに目を配ることは難しいかもしれませんが、観光客や近郊の人にも宮島の町並みを見てほしいですね」。

まるで映画の世界

由起子さん「私は、海外に住んでいたこともあり、少し外国の人の感覚に近いのかもしれませんが、初めて宮島に来たときは目の前の風景が夢か幻か困惑するほど感動しました。まるで美しい映画の世界みたいだなと感じました。ここで育った人は、日本の昔ながらの良さに触れた素晴らしい感性を持っているんだろうなと思います」。

時代を超え思い出のある家を大切にしたい

由起子さん「最初はなぜ古いものを残すのかと思うこともありましたが、暮らしていくうちに、宮島の人を守ってきた家やふるさとを大切に思う気持ちを知り、残していく意味が

分かってきました。宮島に住んでいる人は、町に対して熱い思いを持っています。家を見ると、そこに住んでいる人が見えてきて温かさを感じます。これが宮島の魅力だと思います。時代を超え、多くの人が住んできた思い出のある家が好き。だから大切にしたい、という思いがあります。だからこそ重伝建の保存の意味だと感じています」。

子どもたちにも将来同じ気持ちを感じてほしい

茂雄さん「宮島での暮らしは地域のひととの距離が近く、つながりが深いです。心配なことがあっても地域の人が手助けしてくれます。子どもたちも小さい頃から地域の文化に触れる機会が多く、幼稚園や学校でも地域と関わり、宮島のことを勉強しています。本当に地域に育てられているなと感じます。子どもたちはそこまで意識はしていないかもしれませんが、将来的に宮島を誇りに思ってくれればうれしいですね」。



まちなみ通信配信中

バックナンバーや今後のまちなみ通信は市ホームページやFacebookで見ることができます。

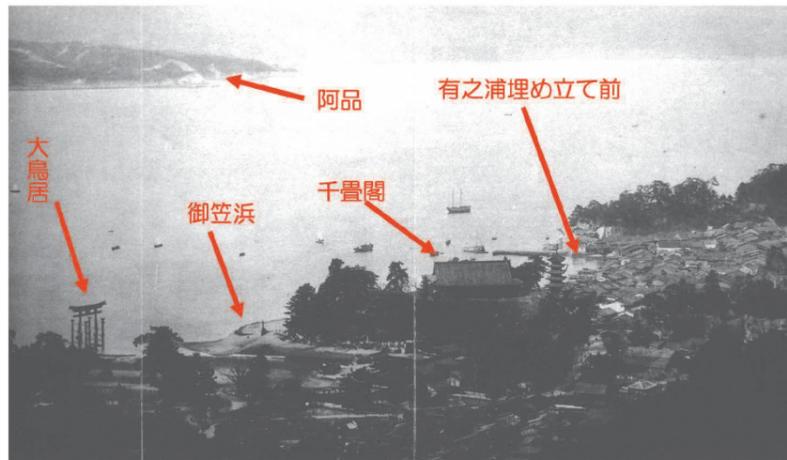


町並みホームページ



宮島町家 Facebook (フェイスブック)

今昔写真を見比べて



上の写真は、大正時代から昭和初期頃の様子です。島内の海岸線が、現在に比べて一回り小さいのがわかります。御笠浜は防波護岸がなく、砂浜の状態です。対岸の阿品はほとんど山のような状況で、家もビルも見えません。海に浮かぶ船は、小さな物が多く、中央のやや大きな船には、帆かけのポールが2本立っているように見えます。

下の写真は、現在の様子です。町並み、屋並みは昔も今も大きな変化はないように思われます。(上の写真が見えにくくてすみません) それに対して対岸には多くのマンションが建ち並び開発が進んでおり、大きな変化が見られます。島内の変化とすれば、海岸線がきれいになり、観光地として整備が進んでいます。海上には定期航路の JR フェリーと松大汽船のフェリーが行き交っています。

「特別史跡・特別名勝 厳島」って何？

文化財保護法の文化財の一つで、島内全域が指定されています。特別史跡は、遺跡として社寺や町家などが古くからあったこと、特別名勝は、海に立つ大鳥居・厳島神社、背後の弥山原始林など優れた景観であることが指定された理由です。全国でも特別が付く史跡名勝は他に、京都市の金閣寺・銀閣寺の境内や、東京都の旧浜離宮庭園などがあります。

島の中で工事や仮設物を設置する計画がある時は、事前に生涯学習課へご相談ください。

連絡先：生涯学習課文化財グループ

TEL (0829) 30-9205 FAX (0829) 32-5163

まちなみ通信 No.28 (令和3年9月1日) 発行

廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

現状変更に関してご相談ください

伝建の制度が始まって2年あまりが経過しました。地区内の皆さんには、まちづくりにご協力をいただき感謝しています。

宮島島内は、小さな工事や仮設物でも現状変更行為許可申請が必要になります。日常の維持管理に関する行為は申請不要ですが、事前に都市計画課へご相談いただければ、手続きの有無を含め、手戻り無くスムーズに事業ができるようお手伝いします。事前の連絡をお願いします。

連絡先：都市計画課歴史まちなみ推進係

TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

まちなみ通信を知っていますか。宮島の町並みの魅力を紹介するため、毎月発行し、宮島地域で配布しています。今回は番外編としてまちなみ通信広報特別版をお届けします。

令和3年9月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.28

～重伝建選定記念はつかいち広報特別版～



建吉：今年も暑い夏が続くのお。

みらい：おじいちゃん、こんにちは。今年のも船はどんなのを作るの。

うみ：みらいちゃん、いらっしやい。たのも船、できているわよ。みらいちゃんが健やかに育つようになって、おじいちゃん今年も頑張ったわよ。

建吉：ええのができたでえ。見てみるか。

みらい：見せて、見せて。わあ、すご～い、七福神が描いてある。瓦も乗ってるよ。障子も付いてる。

建吉：今年は重伝建選定のお祝いを入れてみたんじゃ。昔は五穀豊穡じゃったが、今は、家内安全やいろんな願いも入れるようになったけえのお。

うみ：そうね。明治時代の初めまで島内では農耕が



禁止されていたわね。対岸の人達に頼っていたから、農作物への感謝の行事として五穀豊穡だったわね。

建吉：対岸の大野や廿日市には世話になったわい。

マイク：みらいちゃん、こんにちは。たのも船すごいでしょ。今年は私も手伝いました。瓦の所は私が作ったんですよ。軒裏の腕木や持ち送りも再現したかったのですが、あきらめました。

みらい：マイクならできるよ。来年頑張るって。

マイク：はい、頑張ります。伝建の保存事業で本物の勉強できていますから、たのも船で古民家の模型づくり頑張ります。

伝太郎・もみじ：こんにちは、みらい来てます？



うみ：来てるわよ。たのも船を見てるわ。

伝太郎：みらい、父さんと伝建の建物見ながら散歩するんじゃないのか。今日は、内部を見せてもらえるんだぞ。

みらい：あつ、そうだった。一緒に散歩する約束してた。じゃあ、行ってきま～す。

もみじ：最近、伝太郎さんも町家の魅力にはまっちゃって。暇さえあれば町家の散策に出かけているわ。

建吉：みらいは本気で大工になるかもしれないわい。楽しみじゃ。宮島の町家の魅力は軒裏の文化で奥が深いんじゃ。伝太郎君は、だんだんそこがわかってきたんじやろうて。腕木があって、持ち送りがこうで……。

もみじ：長くなりそう。私も散歩に行こう。

【次回は、通常発行の予定です】



登場人物自己紹介 (通信の令和元年5月号に掲載)

島野伝太郎：岐阜県育ち。海の無いところで育ったので、宮島の島の魅力に引かれ、宮島に移住。今はサラリーマンだけど、将来は日本文化体験の店がやりたいと思っています。

もみじ：宮島育ち。移住してきた伝太郎と出会い結婚した。宮島島内の幼稚園に勤務しています。

みらい：伝太郎の娘だよ。おじいちゃんが大好きで、古いお家が好き。宮島学園2年生で～す。

鳥居建吉：もみじの父じゃ。宮島生まれの大工で、腕に自信がある。古い町家が大好きで、重伝建になって張り切ってる。

うみ：建吉の妻です。宮島踊りを守ってます。町家通りで雑貨・みやげ物店を経営してますから、皆さんごひいきにしてね。

マイク：僕ハ日本文化ヲ勉強ニ留学シテ、宮島ノ魅力ニ引カレ、移住シタ。今ハウミサンノ店手伝ツテル。時々建吉サンノ仕事手伝ウヨ。

令和3年10月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.29

～みやじまの町家に親しむ会～



伝太郎：お義母さん、おはようございます。この前の町歩きで教えてもらったのが役に立って、散歩が楽しいですよ。

うみ：あら、伝太郎さんおはよう。この前って言うと、みやじまの町家に親しむ会の町歩きのこと？



伝太郎：あっ、そうです。島外から来た僕にとっては、興味深い話が多かったです。

うみ：そうね。主人（建吉）のいつもの説明は、熱く語るから圧倒されて、わかりにくいわね。

伝太郎：いえいえ、お義父さんの説明は良くわかりますよ。なかなかのものです。

うみ：気を遣わなくてもいいわよ。でも、私にしてくれた、腕木や持ち送りの分類の説明はとってもわかりやすかったわ。

伝太郎：そうなんです。僕もなんとなくいいなと思って散歩で見てたんですけど、「透かし彫り」とか「絵様持ち送り」とか「金属製」とか気にしてなかったから、なるほどって思ってます。



うみ：私も、ギャラリー宮郷さんの透かし彫りの持ち送りと、すみれ草さんの板状彫り物の持ち送りが、同じ持ち送りとは思ってなかったわ。

伝太郎：そうそう、それに金属製は、別物と思ってましたけど、持ち送りの役目は同じなんですわ。

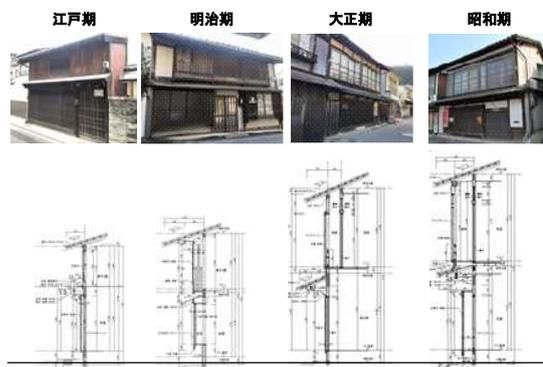
うみ：それだけ知っていると、一緒に散歩してくれる

みらいちゃんに、自慢してるんじゃない？

伝太郎：えっ、ばれてましたか。

うみ：それより、私は建物の高さのところがすごく納得しちゃったのよ。江戸時代から明治・大正・昭和になって行くに連れて、だんだん階高が高くなっていったところとかね。

各時代の町家



伝太郎：それは僕も感じました。僕の出身の岐阜に「恵那市岩村町本通り」と言う重伝建地区があるんですが、よく似た町家が並んでいます。

うみ：あら、そうなの。伝太郎さんも、宮島と繋がっていたのかしら。

伝太郎：そういわれると、なんだかうれしいですね。

うみ：親しむ会は、毎月やる予定で始まったけど、コロナ禍で、どうなるかわからないわね。

伝太郎：でも、僕にとってはすごく勉強になるし、宮島町家の魅力がよくわかります。

うみ：島の人達はずっと住んでるから、厳島神社は世界遺産で自慢できる事だと感じてても、自分が住んでる門前町が、神社を支えてきた「すごい文化財」とは、わかりにくいでしょうね。

伝太郎：まずは僕たちが魅力をよく勉強して、みんなに伝えられる知識を得ないといけませんね。

うみ：そうね。仲間も増やさなくっちゃね。

【次回は、もみじ祭りです】



今昔写真を見比べて

左の写真は、昭和40年代の伊勢町付近です。角地の3階建てが建築中です。手前に「中井結納店」の看板が見えます。今は、結納を行う人が少なくなっているかもしれませんね。

右は現在の伊勢町の写真です。3階建ての建物は形が変わらずに存在しています。その向こう側に入母屋屋根の形が同じように見えます。道路が一部拡幅され、手前の建物は建て替えられましたが、玄関上の庇の出桁や腕木は、宮島町家の特徴として設置されています。拡幅された道路部分は、車の離合場所になっています。

現在は伊勢町となっていますが、以前は、「存光寺町」と呼ばれていました。どちらも地域に根ざした神社やお寺の名が付いています。島内には、名前の変わった地域がいくつかありますので、今後は、今昔写真と合わせて紹介できるように、よく調べておきたいと思います。

令和3年度伝建保存事業が進んでいます

今年度は、大西町の河野邸（汐まち庵）と中江町の坂田邸（さかた屋）の2件が、市の伝建補助金を活用して、保存事業（修理）を行っています。

河野邸は屋根と2階窓、側面改修、奥側の日だな工事が対象になりました。既に工事が終わり、完了の手続きを行っているところです。

坂田邸は、表の1階開口部、2階の構造補強、側面の補修、神社側の改修工事が対象です。現在工事中で、年内完成を目指しています。



河野邸



補助事業看板



坂田邸

みやじまの町家に親しむ会

宮島の特徴ある町家や建物を勉強し、宮島の魅力を再発見しませんか。会員募集中。

連絡先：TEL 090-7541-7461 (内山)

まちなみ通信 No.29 (令和3年10月1日) 発行
 廿日市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
 TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和3年11月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.30

～もみじ祭り～



うみ：今年は紅葉がいい色になり始めたわね。

建吉：毎年この時期が一番ええ時じゃけえ、お客さんに楽しんでもらいたいよのお。

うみ：今年もライトアップするそうね。

マイク：おはようございます。朝の散歩は気持ちいいですね。もみじも色づき始めました。

うみ：あら、マイクおはよう。いい色でしょ。



昨年の白糸川周辺

マイク：はい。日本の秋はすばらしい。特に宮島のもみじはとつてもきれいです。

建吉：マイクは宮島のええ所を知つてるのお。

うみ：今年も夏の猛暑が厳しかったけど、このところ朝晩が急に涼しくなってきたから、紅葉はきれいになる環境だと思うんだけどね。

マイク：夏の暑さも色づきに影響するんですか。

うみ：あまり暑かったり雨が少なかったりだと、葉っぱがしおれちゃうから色づきが悪くなるのよ。

マイク：そうなんですか。ところで観光では、よく「もみじ祭り」って言いますが、どこかでお祭りしてるんですか。

うみ：あの「もみじ祭り」はね、大聖院のもみじ鑑賞を毎年の恒例で行っているから、「大聖院のもみじ祭り」として言っているのよ。島の行事としては少し違うかな。

建吉：島のもんは、この時期が商売のかき入れ時じゃけえ、店を置いていて行事の準備やらをやつとる場合じゃないんじやな。

マイク：そう言われると、うみさんの店の手伝いが一番長いのがこの時期でした。ずっと、うみさんの店手伝ってました。

うみ：そうね。今年は忙しいとうれしいけどね。

建吉：わしの仕事は、建物の修理じゃけえ、この時期は商売の邪魔をせんように静かにしとるんじや。商売人は、コロナでよう我慢しとったけえ、お客さんにようけい来てほしいのお。

うみ：緊急事態宣言が解除されてから、だいぶお客さんが戻ってきているようには見えるけど、皆さんまだおそるおそるって感じはあるわね。



昨年のもみじ谷

建吉：いきなり元どおりは難しいじゃろうのお。

マイク：外国の人はほとんど来てませんしね。

うみ：そうなのよ。お土産を買う人の割合からすると、外国の人は日本のお土産が好きなのよね。早く外国の人達が、安心して来日できる環境になるといいわね。

マイク：お祭りのように、たくさんのお客さんで賑やかになるといいですね。

うみ：もみじ谷は毎年ライトアップされるから、夜まで楽しめるし、昨年から始まった大聖院のライトアップも11月13日からって聞いているから、楽しんでほしいわね。



夜のもみじ谷

建吉：まさに、「もみじ祭り」になるとええのお。

【次回は、鎮火祭（松明づくり）です】



© tsuneichiro OTO
撮影：宮島町文化財課 提供：周防大島文化交流センター
本写真の著作権は宮島町にあります。
本データの使用は、廿日市市厳島伝統的建造物群保存対策調査に限って許されています。



今昔写真を見比べて

左の写真は、昭和40年代の滝町付近です。入母屋屋根の立派な建物です。建物右手の塀の中にある植木がきれいに剪定されています。壁や瓦などはきれいに管理されているように見えます。左端に電柱、右上に電線が写っています。

右は現在の滝町の写真です。ほぼ変更無く入母屋屋根の建物が建っています。昭和の写真では、電柱・電線がありましたが、電線類地中化事業により電柱も電線も地中化されて、スッキリしています。それに変わって街灯が建っています。また、塀の内側の植栽が大きく成長しています。

よく見ると、建物外にある格子状の囲いの縦柵支柱部分が、今昔写真で差があります。現在の方が太く見えますので、途中で修理したようです。

滝町は、白糸川にあった滝から名が付いたとされ、過去には「瀧」の字に関連したお宮などがいくつかあったようです。

まちなみ通信 No.30 (令和3年11月1日) 発行
廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999



文化財保護強調週間 Cultural Properties Protection Week

文化庁は、11月1日から7日までの期間で、文化財保護強調週間として、文化財に関する各種行事を全国で開催し、文化財に関して国民の皆さんに理解と関心を持っていただくこととしています。

宮島は、常日頃から「厳島神社」などの国宝や各種寺院などの文化財に触れており、あまり意識することはないかもしれません。

しかし、今年はコロナ禍によって観光客が激減したことから、あらためて文化財の島という特殊性を考えてみる機会にはいかがでしょうか。生活していくには規制や申請手続きなどの煩わしさはあるものの、来島する方々へ感動を与える文化財の素晴らしさや、それを支えてきた島民の日常を、誇りに思っ振り返るのもいいのではないのでしょうか。

みやじまの町家に親しむ会

宮島の特徴ある町家や建物を勉強し、宮島の魅力を再発見しませんか。会員募集中。

連絡先：TEL 090-7541-7461 (内山)

令和3年12月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.31

ちんかさい たいまつ
～鎮火祭（松明づくり）～



伝太郎：お義父さん、おはようございます。だいぶ寒くなってきましたね。

建吉：おはよう。もう、年の瀬じゃからなあ。

伝太郎：年の瀬と言えば、鎮火祭ですけど、今年は大きな松明は作られるんですかね。



昭和40年代底上の大松明

建吉：物産店やホテルやらで、3mぐらいのを6本は作るらしいのお。昔は10本以上は作られとったんじゃないかのう。

伝太郎：そんなにあったんですか。

建吉：それだけじゃあないで。5mを超える、ほんまに大松明を作りよったんじゃ。

マイク：こんにちは、私それ、歴史民俗資料館で見ました。すんごくでっかいですう。

伝太郎：わあ、びっくりした。マイク、いつ来たの。

マイク：それより、鎮火祭の起源が山伏って書いてあるのを見ましたけど、なんですか。

建吉：よう見つけたのお。あれは、「晦山伏」とゆうて、昔は坊さんの修行というか、行事のひとつじゃったんじゃ。



マイク：今は厳島神社の行事ですよ。

建吉：昔は、神社も寺もはっきりとは分けてはおらなんだ。山伏の身なりの僧が大聖院に集まって、

松明持って神社に向かい、拝殿で読経したんじやが、不思議と、当時板葺きの多い民家の屋根にその火の粉が散っても火事にならなんだ。

伝太郎：なるほど。それで今は火除けの行事としているんですね。

建吉：そう言うことじゃ。今は、神社で浄火をとって、御笠浜に設けた齋場に持って行って点火するようになったんじやな。みんな持ち寄った松明にそこで火を着けるようになってる。

マイク：形は変わっても、行事は続いているって、宮島はやっぱりすごいです。

伝太郎：みらいが言っていましたけど、宮島学園で松明作るんですか。

建吉：おう。わしが毎年指導に行っとるんじや。

マイク：私も手伝いに行ってみよう。

伝太郎：5年生以上が教えてもらうから、みらいは教えてもらえないのって、怒ってましたよ。

建吉：小さい松明でものお、手づくりじゃとかなりの力があるんじや。

マイク：そうなんですよ。縄を巻いてしぼるのが難しいです。

建吉：竹の周りに巻いていく「そぎ」(薄い短冊状の板)をしつかりにぎって、縄で男結びするんじやが、なれんとこれが難しいのお。

マイク：年に1回なんで、男結び覚えられません。建吉：みらいの分は、わしが家で、一緒に作ってやるかのう。

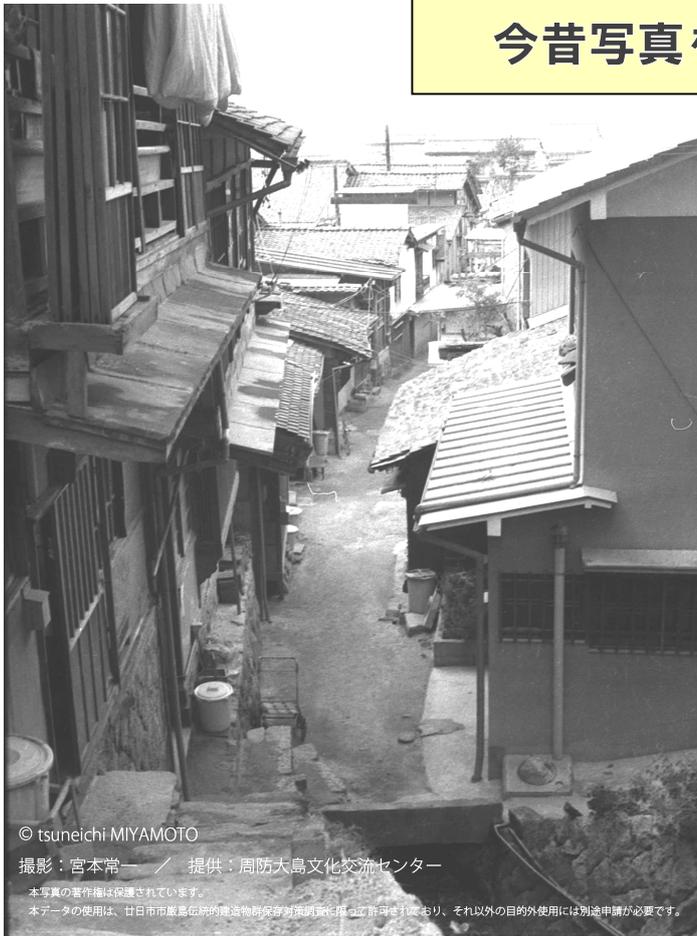
伝太郎：伝統をつないでいくのも大変ですね。僕もその時教えてください。お願いします。



家庭用の松明

【次回は、百手祭の予定です】

今昔写真を見比べて



© tsuneichi MIYAMOTO

撮影：宮本常一 / 提供：周防大島文化交流センター

本写真の著作権は保護されています。

本データの使用は、廿日市市歴史民俗的建造物保存対策協議会に協賛して許可されており、それ以外の目的外使用には別途申請が必要です。



左の写真は、昭和40年代の桜町から海岸方向を見た写真です。手前の左の家は、木造の伝統的な建物の様子が伺えます。木製建具や板庇が残っており、2階部分の縁側の外に、雨戸の戸袋に似た枠だけの建具を集合させるものが残っています。その先の家も屋根勾配が少し緩く見えます。おそらく昔の板葺き屋根の名残があるのだろーと思われます。路地はまだ舗装されていないようです。

右の写真が現在の桜町です。手前の左側の家はかなりの老朽化により改修されていますが、木製の格子を付けたたり古いものを活かした修理をされています。右の家は、汲取り式の臭突が無くなったりエアコンの室外機が設置されたり現代の生活に合わせた変化が見られます。道路が舗装され、手前の石段には手摺りが設置されています。

この辺りは、昔「^{なかま}中間町・^{なかまだに}仲間谷」と呼ばれていました。桜が数百株あったことから、かなり賑わっていたと、宮島町史に記載があります。

まちなみ通信 No.31 (令和3年12月1日) 発行
廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

宮島ガイドの会に宮島町家の特徴を伝えました

11月2日(火)に etto 宮島交流館で、宮島ガイドの会の皆さんに、宮島町家の特徴を伝えました。宮島の歴史や観光スポットはよくご存じの方々ですので、この度の重伝建選定により、門前町としての高い評価を受けたことや、宮島ならではの町家の特徴についてをお話しました。町並みもガイドのメニューに加えていただけるといいなと思います。



重伝建選定記念シンポジウムを開催します

日時：12月19日(日) 13時45分～

場所：etto 宮島交流館 (宮島まちづくり交流センター)

基調講演：『宮島観光と生きた遺産としての町並みの活用を考える』西山徳明 (北海道大学教授)

その他パネルディスカッションがあります。

参加費無料・定員50人・要予約、ライブ配信有

令和4年1月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.32

ももてさい
～百手祭～

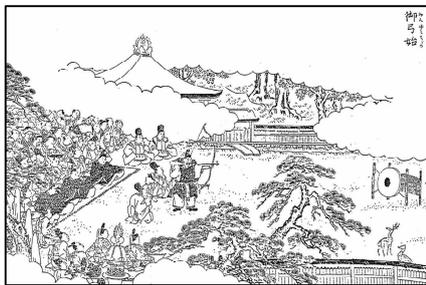


みらい: あけましておめでとうございます。皆さん
今年も「まちなみ通信」をよろしくお願ひします。

うみ: いいご挨拶ねえ。みらいちゃん、明けまして
おめでと。今年もよろしくね。はい、お年玉。

みらい: わ～い。おばあちゃんありがとう。ところ
でおばあちゃん、百手祭のハウハンって、なかに。

滝町の友
達が言っ
てたんだ
けど?



うみ: 今月予
定の百手
祭ね。大元神社の行事は知ってるよね。

みらい: うん、神主さんが弓矢を飛ばすやつだよ。

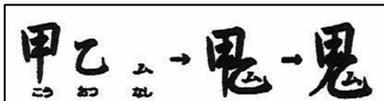
うみ: 矢を射るって言うのよ。元はね、1月20日



に大元神社の本殿前で
百手(1手は2本の矢を
射ること)つまり200
本の矢を射る厳しい儀式
が行われていたの。

みらい: へえ～、それで百がついているんだ～。

うみ: それとね、千疊閣で御弓始という儀式があ
ってね、的に「甲」「乙」「ム」の三文字を謎字(1
つに合わせる)にして、年の初めから勝負を争わ
ないという
行事があっ
たの。



みらい: じゃあ、的の裏にあ
る文字は「鬼」じゃないん
だ。矢で鬼をやっつけるの
かと思った。



うみ: その2つの行事が、い
ろいろな時代の流れの中でまとめられ、百手祭
という1つの行事として今は行われているの。

みらい: ふ～ん、そうなんだ。それより、ハウハン
はどうなったの。

うみ: そうそう、^{ほうはん}飴飯だったわね。百手祭ではね、
神様にお供えするものを煮炊きしたものにする
の。とてもめずらいことなのよ。一般的には野菜
なんかも生ものをお供えするんだけどね。それ
を代々滝町の人達が準備をして、儀式の後で、関
係する人達で神様と同じものをいただく「直会」
のお世話をしているのよ。

みらい: だから滝町の友達が良く知ってるんだ。

うみ: この飴飯は、作り方が細かく決まっていますね、
おばあちゃんは町家通りで育ったから作ったこ
とがなくって、詳しいことは知らないのよ。



滝町の方が作られる飴飯



客人用の飴飯(神様に
は御神酒が加わる)

みらい: ふ～ん。ないしょなのかなあ。

うみ: ふふふ、ないしょじゃないわよ。観光協会で、
百手祭の小冊子を売っているから、準備する材
料や切り方、盛り付け方は紹介されているのよ。

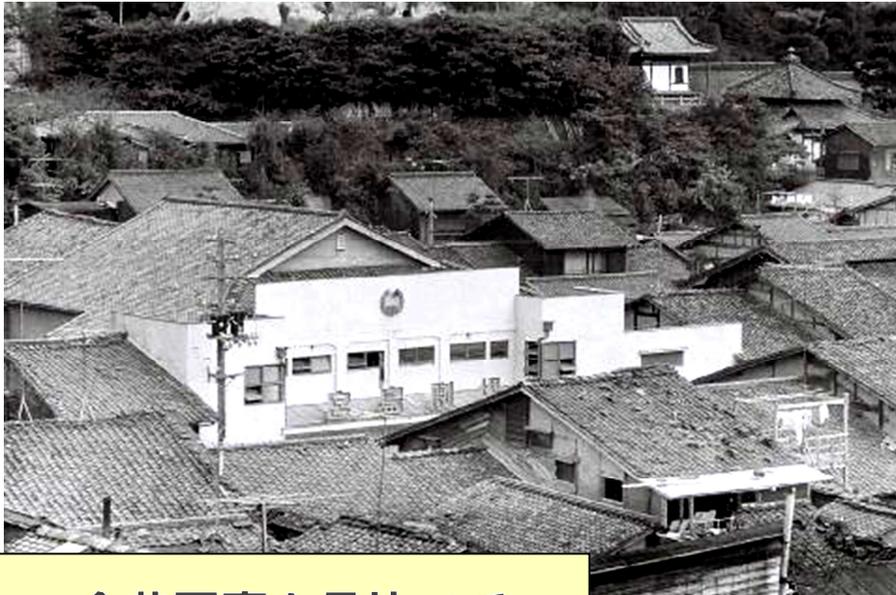
みらい: そうなんだあ。じゃあ、ハウハン滝町の人
しか食べられないんだ。

うみ: そうでもないわよ。客人用はいただくことは
できるけど、まだコロナの影響があるから今年
は難しいかな。

みらい: そっか。でも、百手祭は見に行こつと。お
ばあちゃんも行こうよ。

うみ: そうね、お天気も心配だけど、コロナも落ち
着いているといいわね。

【次回は、かき祭りの予定です】



今昔写真を見比べて



上の写真は、昭和40年代の要害山から宮島劇場付近を見た写真です。写真の右奥に宝寿院の聖天堂と本堂（護摩堂）が見えます。周囲は、木造の伝統的な建物の様子が伺えます。宮島劇場以外は、通りに向かって切妻屋根の平側が向いています。

下のカラー写真は、現在の様子です。宮島劇場は撤去され、赤い丸で囲んだNTTの交換所が建っています。宮島劇場よりもかなり低い建物となりました。右奥の宝寿院は変わりなく建っていますが、その左側は、樹木が剪定され、石積みが整備され、防災工事が進められています。

宝寿院の手前辺りは、現在「大和町」の名がついていますが、以前は「後町」と呼ばれていました。今も親しみを込めて後町と呼ばれることがあります。

重伝建選定記念シンポジウムが開催されました

12月19日（日）etto 宮島交流館で、重伝建選定記念シンポジウムが開催されました。交流館前には記念の案内板（石造り）が置かれました。

基調講演では、以前に宮島町家の調査に携わった北海道大学の西山徳明教授が『宮島観光と生きた遺産としての町並みの活用を考える』と題して、話していただきました。続いてのパネルディスカッションでは、それぞれの立場での、まちづくりへの思いがあふれた話が聞けたと思います。

このシンポジウムは、見逃し配信を行っています。詳しくは、市ホームページの宮島歴史的町並みのページをご確認ください

まちなみ通信 No.32（令和4年1月1日）発行
 廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
 TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和4年1月26日文化財防火デー

文化財防火デーの制定は、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建築である法隆寺金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。この事件は国民に強い衝撃を与え、その後、この時期に火災が多いこともあり、昭和30年に1月26日を文化財防火デーと定め、文化庁・消防庁・各自治体や文化財所有者・地域住民等が連携・協力して防火運動を展開しています。

今年のポスター

宮島は、文化財が特に多い町です。日頃から気をつけているとは思いますが、あらためて「火の用心」を心がけましょう。

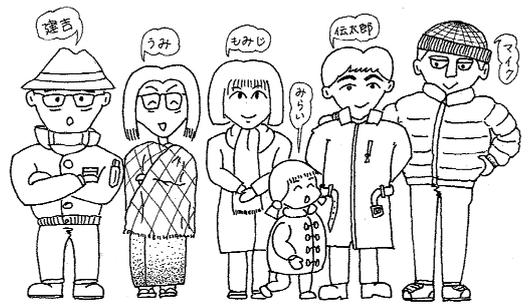


令和4年2月1日号

島野伝太郎一家の

まちなみ通信 No.33

～かき祭り～



マイク：建吉さん、うみさんこんにちは。日本の冬はとても寒いです。

建吉：おう、マイクは寒がりじゃのお。まあ、アメリカも比較的暖かい地方の出身じゃったな。

マイク：寒い時は、日本の鍋料理なべ料理がいいですね。

うみ：なあにマイク。鍋が食べたくなったの。いいわよ、今日の夕食はかき鍋にしましょうかね。



マイク：ありがとうございます。日本の鍋料理大好きです。特に宮島のかきはとてもおいしいです。どうして宮島のかきはおいしいんですか。

建吉：かきが育つ環境がええんじゃ。瀬戸内海は波が穏やかで、この辺りは広島湾の中で川からの植物性プランクトンがようけえ運ばれてくるんじゃが、特に弥山みせんの原生林げんせいりんがええんじゃのお。

うみ：そう言うこと。濃厚のうこうでクリーミーな味で、私も好きだわ。そう言えば、そろそろ「かき祭り」の時期だけど、今年もコロナ禍かで、開催は難しいみたいね。



建吉：去年も栈橋広場さんばしでの開催がでんかだったけえ残念じゃのお。例年なら土・日で3万人ぐらい来てもらえるんじゃがのお。

うみ：そうそう、お客さんが一番少ない2月に宮島に来てもらう方法として始めたのよね。かき

が一番おいしい時期でもあるし、一石二鳥いっせきにちようでいいアイデアよね。格安で全国発送もしていたし、皆さん楽しみにしているわ。

マイク：へ～、そうでしたか。いつ頃から始まったんですか。大野や広島でもやってますよね。

うみ：実は広島県では宮島が最初ね。確か私が結婚する少し前だから、昭和59年だったと思うわ。その後に県内に広がっていったのよ。

建吉：そうじゃったのお。その頃の観光客は年間でも200万人ぐらいで、2月は年間でも一番少ない月じゃったけのお。

マイク：かきは冬がおいしいんですか。

うみ：そうよ。かきはね、寒さの中で栄養を蓄えるの。それがおいしさの秘密なの。

マイク：だからぷっくりしておいしいんですね。

うみ：焼きがきにして食べるとそのおいしさがよ



～くわかるわね。醤油しょうゆをちょっと落とすもよし、レモンでもよしね。

建吉：わしは、味付けせんとそのままがええのお。かきはいろいろ食べ方があるが、かきフライもええし、かき飯めしもええのお。

うみ：いろいろと言え、この頃お好み焼きにも入れるお店もあるわね。



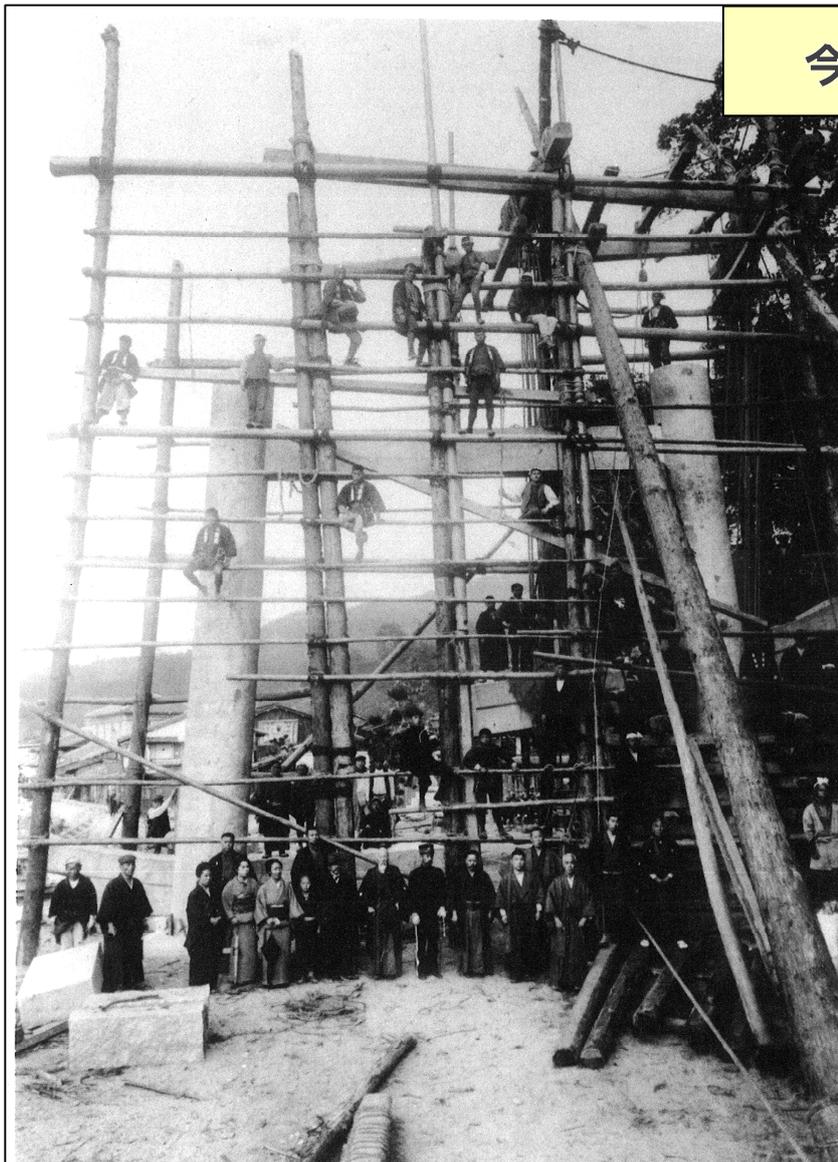
マイク：あっ、僕食べました。お好みソースとマッチしてすごくおいしかったです。

うみ：話題性で言えば、もみじ饅頭とマッチングさせたお店もあったわね。なんにしても広島ならではの食べ方かもしれないわね。

建吉：なんにしても、宮島かきはうまいんじゃ！

【次回は、雛めぐりの予定です】

今昔写真を見比べて



左は明治38年、参道入口の石鳥居施工時の写真です。大型のクレーンのない時代に、何トンもある石を持ち上げて鳥居を組み立てています。足場も丸太を組んで作っています。おそらく番線（太い針金）とロープで縛っていると思われます。職人の皆さんは揃いのほんてん半纏でしょうか、カッコいい姿で写真に納まっています。右上は117年経った現在の石鳥居です。

外観を変更する場合には許可申請の手続きを

宮島は、文化財保護法の「特別史跡及び特別名勝厳島」「伝統的建造物群保存地区」に指定されており、建物や工作物など、見た目に変化がある工事は、全て申請が必要です。

宮島が文化財の町として、多くの観光客が訪れる世界的な観光地として守ってきた誇りある町並みをこれからも継続していくためには、皆さんの協力が欠かせません。面倒でも、工事をする前に市の担当者に相談してください。簡易な工事や緊急性のある工事であれば、短期間で許可ができたり申請不要の場合もあります。

相談先：都市計画課 30-9183、生涯学習課 30-9205

まちなみ通信 No.33（令和4年2月1日）発行
廿日市市建設部都市計画課歴史まちなみ推進係
TEL (0829) 30-9183 FAX (0829) 31-0999

令和5年度保存事業募集

1年余り先になりますが、令和5年度に市の補助金を受けて建物を修理や新築・改築される方（一般の建物を歴史的に改修または、新たに建築するものを含む）を募集します。

対象建物：令和5年度に工事を行う予定の外観

工事で、伝建の基準に適合する建物

対象区域：伝統的建造物群保存地区内

申出期限：令和4年3月末まで

準備書類：市の指定する申出書、建物の正面写真、工事概要がわかるもの

・応募者が多数の場合には、優先順位を決めてお知らせします。順位によっては令和6年度以降になる場合があります。詳しくは、市役所都市計画課まで、お問い合わせください。

連絡先：0829-30-9183（係への直通電話）